

第 2 問 答案用紙< 1 > (会 計 学)

評 点

問題 1

問 1	許容原価	410,000 円
-----	------	-----------

問 2

ア	3.017	イ	2.317	ウ	2.683	エ	1.983
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

問 3 目標原価と最終見積原価との比較表

構成部品	目 標 原 価		最 終 見 積 原 価		未 達 成 額	
	金額(円)	構成比率	金額(円)	構成比率	金額(円)	未達率
エ ン ジ ン	123,820	0.302	161,200	0.350	-37,380	-0.232
ボ デ イ ー	95,120	0.232	115,800	0.252	-20,680	-0.179
サ ス ペ ン シ ョ ン	109,880	0.268	103,000	0.224	6,880	0.067
タ イ ヤ	81,180	0.198	80,000	0.174	1,180	0.015
計	410,000	1.000	460,000	1.000	-50,000	-0.109

問 4

方 策	①	エンジンの加工工程や組立工程, 取り付け工程で生じる仕損品・作業屑の発生量を減らす。
	②	①で生じた作業屑・仕損品がリサイクルできるような方策を考える。
	③	燃費が良くかつ複数の異種製品に共通化された構成部品となるようなエンジンの開発・設計を行う。
①の方策が原価を低減できる理由：		
仕損品の発生量を減らすことは、仕損費の発生を減らすことにつながるから、正常仕損費として許容される水準が低くなるので、原価の低減につながる。		
①の方策が環境負荷を低減できる理由：		
仕損費はこれまで正常額の範囲であったものでも、それを廃棄しなければならない場合、廃棄物として環境負荷を与える。よって仕損品の発生量を減らすことは、環境負荷を減らしていることになる。		

第 2 問 答案用紙<2> (会 計 学)

問題 2

問 1

ア	貨幣の時間価値	イ	金額
ウ	正味現在価値法	エ	比率
オ	内部利益率法		

問 2

	A案	B案
単純回収期間法	4.99 年	5.01 年
ウ の 方 法	1,048 千円	-15,665 千円

問 3

	A案
割引回収期間	6.92 年

問 4

社長の主張：
当社の中期計画の数値目標の一つとして設定されている3年後のCFROIの30%に対し、A案は28.9%で目標を下回っているが、B案は32.9%と目標を上回っているため、B案の方が得策である。
財務担当副社長の主張：
社長の計算は、時間の価値を無視している。 問 1 の正味現在価値法の計算結果から、正味現在価値はA案が1,048千円でプラス、B案は-15,665千円とマイナスなので、A案の方が得策である。

問 5

メリット：
投資計画を分割することによって、巨額の投資を行うことに伴うリスクを軽減もしくは複数年度に分散できるだけでなく、投資額にも貨幣の時間価値のメリットが生じることになる。
具体的な方法：
分割投資計画の収益性を評価する具体的な方法は、投資額についても現在価値に割引いて計算した上で、ディシジョン・ツリーを用いたり、リアル・オプションを用いたりする方法がある。